

【Zigzag-memo No045】 私の人生経歴

1. これまでに素晴らしい人達との数多の出会いがあった。

□ 1；転勤を伴った 41 年長の宮仕え～図(表)－1

- ・ 1968(昭和 43)年 4 月 1 日(月)に入社、2009(平成 21)年 6 月 5 日(金)に定年退職した。
- ・ 高校卒業後、東北電力（株）――インフラ・エネルギー産業の民間企業――に 41 年長勤務して来た。その会社員現役時代においては、2 年 6 か月毎に職場を変わり、16 個所の別場所の職場を経験（異動の度に仕事はもちろんだが、人はほぼ全員変わった。）し、仕事は技術部門から事務部門まで広範な職種に従事・体験して来た。
- ・ また、新入社員は平職から管理職まで経験した。
- ・ その間の転勤に伴い、私は住まいについて 16 か所、家族は 10 か所にも及び、各地域の様々な人達と付き合い・交流を図って来た。一会社のみならず、一地域のみならず、多様な人達との対人関係を持ちとてもとても勉強になった。

在職中の職場と住処			
勤務地（主要都市）	職場数	私の居住個所	家族の居住個所
鶴岡(営)	1	1（独身赴任）	
三川町押切(出)	2	2	1（結婚）
羽黒町羽黒(出)	3	3・4	2・3
鶴岡(営)	4	5	4
新庄(営)	5	6・7・8	5・6・7
山形(営)	6	9	
専門部(宮城県)	7	10（単身赴任）	
山形(営)	8	11	
山形(支)	9	11	8・9・10（建替）
本店(宮城県)	10	12（単身赴任）	
米沢(営)	11	13（単身赴任）	
山形(営)	12	14	
山形(支)	13		
出向(宮城県)	14	15（単身赴任）	
本店(宮城県)	15		
山形(支)	16	16・17（建替）	
計	16 か所	17 か所	10 か所

図(表)－1

全国をまたにかけて異動する転勤族に比べたら、私の山形県内と隣接する宮城県の 2 県だけは取るに足りないものだが、同一企業内といえども 16 か所もの職場を経験させて貰ったことは、かけがえのない真に貴重な経験となった。

□2；徒歩遊学紀行を通して

別記したが定年退職後、75歳までの15年間で実施して来たスルーハイイク遊学紀行歩き旅（正味実歩行距離15,546km）の中で、特に印象にある四国の徒歩へんろについて触れる。殆どの遍路人は30日～50日間を予定して臨んでいる、物見遊山的憧れ、亡き家族や親族の供養、雇い主からの解雇、対人関係いざこざからの解放、定年退職後の暇つぶしなど動機は様々である。覚悟の上であえて苦痛の世界に飛び込んでいるが故に知識偏重は頭でっかちの人はいない。（日常生活のコミュニティにおいて知識をひけらかして屁理屈先行の性格では、苦難連続の遍路には耐えられないだろう。）王陽明の説いた「知行合一」が血肉となっている人達である。そういう人達の話を聞いていると**実践的だから真実味が濃い、迫力がある、思慮が深く斬新・革新的である。みんな悪戦苦闘、試練の渦中であって、かつ、お互いに初対面だから「地金で真っ向勝負」の世界である。**吾が広域コミュニティに跋扈する何とか会の「何とか長」に共通する傲慢態度の胡散臭さは微塵も感じなかった。

□3；宿のご主人と女将さんのこと

特に家族経営の民宿や小さな旅館の人達（かれら）——オーナーのご主人や女将さんは吾が地元の人達（これら）とはどこかが違う、後者これらはとにかく我欲が強い、損得勘定の牙を研いでいるヤツが多い、自己主張が強く視野が狭量、虎の威を借る狐となり、したがって威張る、他人の悪口・影口三昧を得意とする・・・、しかし、前者かれらはそんなことを微塵も感じさせない。話題は豊富で内容は奥深い、他人を慮る慈愛はとても濃厚である、こう言うと接客業だから当たり前だろうという根性の曲がった人が表れるが、そうではない、表層的な接客では直ぐにバレるが、——事務的なビジネスホテルのフロントマンには多い——民宿や旅館の人達は、十人十色の色々な人達（我儘な客）と接する中で、物事を前向きに捉え、謙虚に学ぶ姿勢があるからこそその本当のやさしさが生まれるものだと思う。物事に対するマイナス思考・ネガティブな人と会った記憶はない、思考が柔軟である、万事に肯定的な姿勢である。とにかく、みんな挑戦的で人生観が幅広い人達である、人間味溢れる素晴らしい人達であった、私は皆様の人間性や見識から多くを学ばせて貰った、ご縁を賜りありがとうございます。

世の中には多種多様な仕事・商売があり、「職業に貴賤無し」であるが、「旅館業に係り、人間に直接サービスを提供する仕事」が一番難しい部類の一つではないかと思っている、なぜならば、**この世の生物の中で人間が一番高等かつややこしいからである。「知行合一」を説く王陽明は「山中の賊を破るは易く、心中の賊を破るは難し」と喝破されている。その意は——山中に立て籠もっている賊を討伐するのはやさしいが、自身の心の中の邪念に打ち勝つことは難しい。自分の心を律することは一番困難であるという訓えである。**接客はこのような複雑怪奇で一番難解な人間を相手にし、そのような相手に対して心からのおもてなしを施し、お接待、安らぎを提供する仕事である、同じ心の山賊を抱く人間としては、こちら側の自分が自分の心の統御・統率無くして成り立たない。いわば、寛容と度量、我慢や忍耐、深い包容力無くして上手く対応出来ない。そこに至るまでの事情を窺うとみんな、努力精進しているのである。

印象に残っているある民宿の女将さんがおっしゃられた話です「周りの人達から“見ず知らずの人を相手にするなんて、怖くないの？”と言われる時があるが、怖いと思ったことは一度もない、むしろ、色んな人と会えるのが楽しい、そして、自分も色んなことを訓えられるのです・・・。」

このような宿を提供する接客業の中で磨かれた人達と接すると、無償の愛の尊さ——事務的な宿泊料金には包含されない、損得を超越した処にある人間の純粋な慈愛のころ——というものをしみじみと感ずることが出来た。

2. 学んだことの二題です。

これまでの人生を通して、一国民、一般社会人としての有り様について学んだこと。前記のとおりの一部だけとの限定的な人付き合いではなく、広範な価値観を持った人達と交流出来た。**土柄、あるいは、風土というのがあって、有体に言うと吾が町内会の古くからの住人はどこか偏っているという印象を持っている、私のような経験をするとかこのようなことが見えて来る。**日常生活における他人との付き合い方、対人関係の持ち方については、端的に二つ、「**対等互敬・共存の互惠と一期一会**」の考え方を弁えることである。

□1；私の言う対等互敬（恵）とは、ありのままの個性尊重である。主義主張、思想信条は違っても良いのである、その上で権利・義務の履行においては絶対同等とする立ち位置である、時間と場（空間）を共有出来れば良いのである。その共有とは、互いに相手に賛否を求めないことである。言い放しを認め合うことである。人生交換・生き様交感の場と認識することである。世にいう『絆』を求めない、^{N o n} 囲わない関係である。こういうことを肌感覚で得られない時は、私の得意な体のいい社交辞令で流し、損得勘定・取引打算・その場限りで割り切る。

□2；「一期一会」は旅の時だけではない、日常の人間関係においても、次のような気持ちで接している。なぜならば、今さら解くに解けなくなるしがらみと腐れ縁は作りたくないからである。対人関係もその時々で清算する、心の貸し借りはしないとことである、その心は、

はな
出合いは巡るがこれが最後と一期一会の華祭り
今日の一借し借りせずに、今日を中締め幕を閉じ
今日が最高さようなら、別れを（が）－ 美しく（い）

3. 最期まで自由に

残余の人生を、何よりも自由気ままに生きたい、誰からも束縛されたくない、すべては私自身の自由・自発的な意思・意志を以って「心（認識や精神）・言（言葉や言語や文字）・行（行動や習慣）」（心・言・行）をフル運転！ 極無限の自由にして生きたいと決めた。自己責任の強い決意である。私の言う「自由気まま」とは端的に言えば次のとおり。

①他人に危害を与える脱法行為はしない ②相手の生き様に善悪の評を以って干渉しない ③公序良俗・社会通念に违背しない	の3点を満足する言動（言・行）であれば、
--	----------------------

何をやってもいいではないかという考え方である、目的完遂のためのそれぞれの手法の如何は問わないという考え方である。しかし、社会から逃避はしない、政治悪・社会悪・犯罪、ならびに①②③に抵触する人に対しては一片たりとも同情はしない、許さない。身近なことでは馬耳東風と面従腹背で適当にあしらう。

戻って、やはり「対等互敬（恵）と一期一会」を両手に過ごしたいと思っている。

ところで、真の人間達人とは、私のようにつべこべ言わず語らず、選り好みせず、^{ごじよくあくせ} 五濁悪世を丸のみ、蓮の花の生き方をする人であろう、そのような人に一目会ってみたい！

(end)